

経営概要書

法人名：

十和田ホテル 株式会社

(株 4)

1 法人の概要

代表者職氏名	代表取締役 猿田 強	資本金	250,000千円	所管部課名
設立年月日	平成9年12月5日	県出資額及び比率	100,000千円 (40.0%)	観光文化スポーツ部観光戦略課
設立目的	歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月に設置。			
事業概要	十和田ホテルの諸施設の管理運営業務			
関連法令、県計画	なし			

2 令和3年度事業実績

当期は、秋田県外において緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置が各地で再発出されたこともあり、募集団体のキャンセルや県外個人客の利用低迷が継続していたことから、秋田県民利用促進のための支援事業を活用し、県内個人客の誘客を推進した。
以上の結果、宿泊人員は8,063名、売上高は175,715千円となった。営業費用については不要不急等の経費削減を図ったが原油高騰による水道光熱費が大幅に増加したこと等により営業費総体で188,015千円となった。営業損失は12,300千円、経常損失は8,070千円となり、当期純利益では、従業員社宅を取得したことによる評価額を特別利益に計上した結果、365千円の黒字となった。

<事業目標・実績>

項目	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
売上高(千円)	目標	261,000	235,000	220,000
	実績	129,394	175,715	—
個人客宿泊人数(人)	目標	13,200	11,300	10,300
	実績	6,382	8,063	—
顧客満足度指数	目標	90	90	90
	実績	93	93	—

3 組織

①役員数(R4.7.1現在)

(単位:人)

区分	取締役		監査役		役員報酬
	R3	R4	R3	R4	
常勤	1	1			支給対象者(R3年度) 2人
内、県退職者					平均年齢 63歳
内、県職員					平均報酬年額(R3年度) 5,700千円
非常勤	7	6	1	1	
内、県退職者					
内、県職員	1	1			
計	8	7	1	1	
内、県関係者	1	1			

②職員数(R4.4.1現在)

(単位:人)

区分	R3	R4	正職員
正職員	4	2	平均年齢 51歳
出向職員			平均勤続年数 17.0年
内、県職員			平均年収(R3年度) 3,760千円
臨時・嘱託	6	9	
内、県退職者			
計	10	11	
内、県関係者			

③取締役会回数

令和2年度	令和3年度
4回	4回

4 財務

①損益計算書

(単位:千円)

区分	令和2年度	令和3年度
売上高	129,394	175,715
売上原価	141,438	160,436
売上総利益	△ 12,044	15,279
販売費及び一般管理費	23,459	27,579
人件費(売上原価含む)	69,476	71,227
営業利益(損失)	△ 35,503	△ 12,300
営業外収益	15,737	4,261
営業外費用	2	31
経常利益(損失)	△ 19,768	△ 8,070
特別利益		9,216
特別損失		
法人税、住民税・事業税	300	781
当期純利益(損失)	△ 20,068	365

<主な経営指標>

項目	令和2年度	令和3年度	増減※
経常収支比率(経常収益÷経常費用)	88.0%	95.7%	+7.7
流動比率(流動資産÷流動負債)	1566.1%	994.8%	△571.2
自己資本比率(純資産計÷負債・純資産計)	63.4%	61.1%	△2.3
有利子負債比率(有利子負債÷純資産計)			

※端数処理の関係で増減が一致しないことがある。

②貸借対照表

(単位:千円)

区分	令和2年度	令和3年度
流動資産	124,596	119,946
固定資産	12,874	23,191
資産計	137,470	143,137
流動負債	7,956	12,057
短期借入金		
固定負債	42,400	43,600
長期借入金	40,000	40,000
負債計	50,356	55,657
資本金	250,000	250,000
利益剰余金等	△ 162,886	△ 162,521
純資産計	87,114	87,479
負債・純資産計	137,470	143,136

※端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。

<退職給与引当状況(単位:千円)>

要支給額	引当額	引当率(%)
8,000	3,600	45.0%

※中小企業退職共済制度へ加入している。

5 県の財政的関与の状況

(単位:千円)

区分	令和2年度	令和3年度	支出目的・対象事業概要等
補助金		1,817	R3宿泊施設感染防止対策物品購入等支援事業費補助金
委託費			
指定管理料			

◎法人の行動計画(平成30年度～令和3年度)

県関与のあり方[縮小・廃止][見直しの方向性]県保有株式の処分を目指し、当面は累積赤字の解消に取り組む。

課題	累積赤字の10%の削減を図る。
取組	継続的に黒字経営を達成すべく、人材の確保を図るとともに、国内外からのお客様に、料理・サービス・施設のより高い品質を提供することで、顧客満足度の向上を図り、更なる売上拡大と生産性向上を推進していく。 【平成30～令和3年度】 当期純利益(累積赤字削減額) 各年度 3,500千円
実績	[当期純利益(累積赤字削減額)] 平成30年度: ▲ 1,895千円 令和元年度: 3,487千円 令和2年度: ▲20,068千円 令和3年度: 365千円

1 公共的役割	A	2 組織体制	A	3 事業実施	(A)	4 財務状況	C
観光客、宿泊客に十和田湖の魅力を伝え十和田湖周辺の活性化に寄与している。国登録有形文化財及び近代化産業遺産を有し、その維持管理に努めている。秋田県民限定プランを積極的に販売し秋田県民の集客に努めている。		取締役会は法定回数の4回を開催している。充て職の役員は毎回取締役会に出席している。常勤役員はプロパー職員である。		自社ホームページをリニューアルし、ベストレートで販売したことにより、昨年より大幅に予約数が増加した。		従業員社宅取得評価額による特別利益9,216千円を計上した結果、当期純利益は365千円の黒字となった。しかし、経常利益は赤字であり、累積損益も赤字である。	

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(C)	4 財務状況	C
県関与の縮小に位置づけられている法人であるが、十和田湖周辺地区の活性化に寄与し、また国登録有形文化財である建物の適正な維持管理を行うなど、一定の公共的役割を担っている。		取締役会は法定回数を満たしている。常勤の役員及び職員がおり組織体制は整っている。充て職の役員も取締役会に出席している。		宿泊人数及び売上高は、令和2年度よりは回復したものの、コロナ禍の長期化による影響で目標を大きく下回る結果となった。しかし、顧客満足度指数は高水準を維持し目標を上回っている。		特別利益により当期純利益は黒字となったものの、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、単年度経常損益は赤字となった。	

新型コロナウイルス感染症の影響が続く、前年より赤字幅は減少しているが2期連続の営業赤字、経常赤字となった。社宅の評価益により当期純利益になったが、依然として厳しい状況である。財政状態は、前期に経営安定資金を調達しており、当面の資金繰りは心配ないと考えられるが、累積損失解消に向け、今後も更なる対応策を継続して実施することが必要である。

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(C)	4 財務状況	C
三セクの行動計画上は「県が直接民間企業に委託することが可能な事業を主たる事業としている法人」に位置づけられているが、歴史的・文化的価値の高い施設の管理や周辺地域の活性化など、一定の公共的役割を担っている。		常勤の役職員がおり、組織体制は整っている。		顧客満足度指数は高水準を維持しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響で宿泊人数及び売上高は目標を下回る結果となり、いずれも目標値の8割に到達しなかった。		新型コロナウイルス感染症の影響により、経常利益は赤字となった。 当期純利益については、従業員社宅取得評価額による特別利益により黒字となったが、依然として多額の繰越損失金があり、コロナ禍にあっても繰越損失金を解消すべく、更なる対応策を実施していく必要がある。	

1 公共的役割	B	2 組織体制	A	3 事業実施	(C)	4 財務状況	C
評価結果を受けて実施した経営健全化に向けた対応（概要）							
新型コロナウイルス感染症拡大の経営状況の苦しい中、所属する部署にとらわれず、職員間同士で互いにサポートすることで人件費の削減に努めたほか、コロナ禍における県内個人客の利用増に努め、営業面における売上増を図った。							

法人名 十和田ホテル(株)

①令和4年度計算書類等

法人所管課 観光戦略課

定 款

十和田ホテル株式会社

第 1 章 総 則

(商 号)

第1条 当社は、十和田ホテル株式会社と称する。

(目 的)

第2条 当社は、次の事業を営むことを目的とする。

(ア) 宿泊施設、レストラン、浴場等十和田ホテルの諸施設の管理運営業務の受託

(イ) 酒類、煙草、清涼飲料水、食料品、観光土産品等の販売

(ウ) 上記各号に付帯関連する一切の業務

(本 店)

第3条 当社は、本店を秋田県鹿角郡小坂町におく。

(公告方法)

第4条 当社の公告方法は、官報に掲載する方法とする。

第 2 章 株 式

(発行可能株式総数)

第5条 当社の発行可能株式総数は、15,000 株とする。

(株券の発行)

第6条 当社は、その株式に係る株券を発行する。

(株券の種類)

第7条 当社の発行する株券は、1 株券、10 株券、50 株券、100 株券、500 株券および 1,000 株券の 6 種類とする。

(株式の譲渡制限)

第8条 譲渡による当社の株式の取得については、取締役会の承認を要する。

(株式の割当を受ける権利の決定)

第9条 当社は、当社の株式（自己株式処分による株式を含む）および新株予約権を引き受ける者の募集をする場合において、その募集事項、株主に当該株式または新株予約権の割当を受ける権利を与える旨およびその申込の期日については、取締役会の決議によって定めることができる。

(株式取扱規則)

第10条 株主名簿の記載または記録、株券の再発行その他株式の取扱に関する手続については、取締役会で定める株式取扱規則による。

第 3 章

株 主 総 会

(招 集)

第11条 当会社の定時株主総会は、毎事業年度が終了した日の翌日から3か月以内に、臨時株主総会はその必要のあるときに、これを招集する。

(定時株主総会の基準日)

第12条 当会社は、毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された議決権を行使することができる株主をもって、その事業年度に関する定時株主総会において権利を行使することができる株主とする。

(招集権者および議長)

第13条 株主総会は、法令または定款に別段の定めがある場合を除き、取締役会の決議によって取締役社長がこれを招集し、議長となる。ただし、取締役社長に事故があるときは、予め取締役会で定めるところにより他の取締役がこれに当たる。

(決議の方法)

第14条 株主総会の決議は、法令または定款に別段の定めがある場合を除き、出席した議決権を行使することができる株主の議決権の過半数をもってこれを行なう。

2、 会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行なう。

(議決権の代理行使)

第15条 株主は、当会社の議決権を有する他の株主1名を代理人として、その議決権を行使することができる。ただし、株主または代理人は代表権を証する書面を株主総会ごとに会社に提出しなければならない。

(議事録)

第16条 株主総会の議事については、その経過の要領および結果ならびにその他法令の定める事項を議事録に記載または記録する。

第 4 章

株主総会以外の機関

(機 関)

第17条 当会社は、株主総会および取締役のほか、取締役会、監査役をおく。

(定 員)

第18条 当会社に取り締役10名以内、監査役2名以内をおく。

(選任方法)

第19条 取締役および監査役は、株主総会の決議によって選任する。

2、 前項の選任の決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3

分の1以上に当たる株式を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行なう。

3、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする。

(任期)

第20条 取締役の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとし、監査役の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとする。

(代表取締役および役付取締役)

第21条 当会社の代表取締役は、取締役会の決議により選定する。

2、会社は、取締役会の決議により取締役社長1名を選定し、必要により取締役会長1名、取締役副社長、専務取締役、常務取締役各若干名を選定することができる。

(取締役会の招集)

第22条 取締役会の招集通知は、各取締役および各監査役に対して会日の少なくとも3日前に発するものとする。ただし、緊急の必要があるときは、この期間を短縮することができる。

2、取締役および監査役全員の同意があるときは、招集の手続きを経ないで取締役会を開催することができる。

(取締役会の決議)

第23条 取締役会の決議は、議決に加わることができる取締役の過半数が出席し、その過半数をもって行なう。

2、取締役が取締役会の決議の目的である事項について提案した場合において、取締役(当該事項について議決に加わることができる者に限る。)の全員が書面または電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の取締役会決議があったものとみなす。

(取締役会議事録)

第24条 取締役会の議事については、その経過の要領および結果ならびにその他法令の定める事項を議事録に記載または記録し、出席した取締役および監査役がこれに署名もしくは記名押印または電子署名する。

(取締役会規則)

第25条 取締役会に関する事項は、法令または本定款のほか、取締役会において定める取締役会規則による。

(報酬等)

第26条 取締役の報酬、賞与その他の職務執行の対価として当会社から受ける財産上の利益(以下「報酬等」という。)は、株主総会の決議により定める。

2、監査役の報酬等は、株主総会の決議により定める。

第 5 章 計 算

(事業年度)

第27条 当会社の事業年度は毎年4月1日から翌年3月31日までの1年とする。

(剰余金の配当)

第28条 当会社の剰余金の配当は、毎事業年度末日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対して行う。

- 2、 当会社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当をすることができる。
- 3、 剰余金の配当または中間配当の配当財産が、その交付開始の日から満3年を経過しても受領されないときは、当会社は、その支払の義務を免れるものとする。また、未払配当財産には利息を付けないものとする。

法人への出資団体等一覧

(単位:千円)

出資等団体数	10	資本金・基本財産合計額	250,000
--------	----	-------------	---------

(出資団体等一覧)

[illegible]

秋田県出資・出捐法人 役員名簿

法 人 名 : 十和田ホテル 株式会社

時 点 : 令和4年7月1日

番号	役職名称	氏名	職名
1	代表取締役	猿田 強	総支配人
2	取締役	佐々木 重夫	秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課長
3	取締役	細越 満	小坂町長
4	取締役	仲 雅之	小坂製錬(株)代表取締役社長
5	取締役	佐川 博之	(株)秋田魁新報社代表取締役社長
6	取締役	吉原 史直	藤田観光(株)リゾート事業部企画室長
7	取締役	石塚 真人	秋田テレビ(株)代表取締役社長
8	監査役	前田 正人	前田公認会計士事務所
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			

番号	役職名称	氏名	職名
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			
50			
51			
52			
53			
54			

1、現状分析

■2021年度の振り返り

(1) 過去年間の収益推移

<2016年-2021年 損益計算書>

PL		①2016年 構成比		②2017年 構成比		③2018年 構成比		④2019年 構成比		⑤2020年 構成比		⑥2021年 構成比	
売上高 計	室料収入	87	41.4%	98	44.5%	114	45.5%	125	49.5%	58	45.0%	90	51.2%
	料理収入	91	43.1%	90	40.9%	102	40.8%	93	36.9%	54	41.7%	66	37.8%
	飲物収入	14	6.5%	13	5.8%	14	5.7%	14	5.7%	8	6.2%	10	5.5%
	売店収入	16	7.4%	16	7.4%	17	6.9%	16	6.5%	9	6.6%	9	4.9%
	その他収入	3	1.6%	3	1.4%	3	1.2%	4	1.4%	1	0.5%	1	0.5%
		211	100.0%	220	100.0%	250	100.0%	253	100.0%	129	100.0%	176	100.0%
変動費 計	材料費	43	20.3%	41	18.8%	48	19.0%	42	16.8%	24	18.7%	29	16.4%
	手数料	22	10.6%	26	11.9%	30	12.0%	32	12.6%	11	8.2%	13	7.6%
	変動人件費	2	0.8%	2	0.9%	2	0.6%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
	客室清掃費	6	2.7%	6	2.6%	6	2.5%	6	2.4%	4	3.4%	6	3.3%
	その他	9	4.3%	10	4.5%	11	4.5%	13	5.3%	8	6.2%	10	5.5%
		81	38.7%	85	38.7%	97	38.7%	95	37.5%	47	36.5%	57	32.7%
限界利益		129	61.3%	135	61.3%	153	61.3%	158	62.5%	82	63.5%	118	67.3%
固定費 計	人件費	71	33.5%	73	33.3%	88	35.2%	84	33.1%	69	53.7%	71	40.4%
	水道光熱費	19	9.0%	21	9.7%	24	9.6%	23	9.1%	14	10.9%	22	12.2%
	業務委託費	8	3.9%	9	4.3%	9	3.4%	9	3.4%	7	5.1%	8	4.6%
	営業費	4	1.9%	4	1.9%	4	1.7%	4	1.8%	2	1.8%	3	1.6%
	設備関連費	13	6.0%	12	5.5%	13	5.3%	16	6.4%	15	11.5%	16	9.0%
	その他	12	5.8%	14	6.3%	17	6.8%	16	6.5%	10	8.0%	12	6.7%
		127	60.1%	134	60.9%	155	62.0%	153	60.3%	118	91.0%	131	74.5%
営業利益		3	1.2%	1	0.4%	▲ 2	-0.7%	6	2.2%	▲ 36	-27.4%	▲ 13	-7.2%
営業外損益		1	0.4%	0	0.1%	0	0.0%	0	0.0%	16	12.2%	4	2.3%
経常利益		3	1.7%	1	0.5%	▲ 2	-0.6%	6	2.3%	▲ 20	-15.3%	▲ 9	-4.9%
特別利益		0		0		0		0		0		9	
法人税等		1		0		0		2		0		1	
当期利益		3		1		▲ 2		3		▲ 20		0	
損益分岐点売上高		206		218		253		244		185		195	
労務費		86	40.9%	90	41.1%	104	41.8%	100	39.3%	80	53.7%	85	40.4%
労働生産性		1.58		1.58		1.54		1.66		1.08		1.46	

労働生産性 (限界利益+客室清掃費)÷労務費(人件費+業務委託費+客室清掃費)

【売上高】

- ・ 利益率改善のため2017年より販売価格見直しを行い、1泊2食の室料・料理収入の収入構成改善に取り組みを図ったことで、2021年は、室料収入の構成は収入全体の51.3% (前年比+6.3P 2016年比+9.8P) 飲物、売店収入を除く1泊2食での室料構成では、57.6% (前年比+5.7P) まで上昇した。(2016年比 +8.6P)

【限界利益】

- ・ 2019年まで(コロナ禍前)は、60%台前半で推移。本年、前年は、コロナ支援策として秋田県による県民割、プレミアム宿泊券等により県民利用が大幅に増加となり、概ね自家用車移動であることからAGT手配から直販予約が増加したことで送客手数料が減少し限界利益率67.3%まで改善した。なお、客室清掃費については人員不足・最低賃金の引き上げ等から年々委託料金が値上げとなっており利益に与える影響が大きい。また次年度においてもさらに値上げの状況にある。(2019年 950円 2020年 1,428円 2021年 1,620円 影響額 2019年比 2,536千円 2022年 1,898円)

【経常利益】

- ・ 2018年では、宿泊人員の増加および採用難による派遣社員の補充増で人件費が大幅に上昇したことで赤字(▲2M)となり、利益改善のため2019年度は、販売価格の再見直し並びに生産性の改善に取り組み黒字化となった。しかしながら2020年度、2021年度はコロナ感染症拡大により休館および利用人員抑制等余儀なくされ大幅な利用人員減となった。また、燃料高騰による水道光熱費において大幅に増加したことで2期連続の赤字となった。燃料高騰による影響額 重油 単価平均 68.08円 前年比 +22.94円 +2.1M(4-1月)直近2月 81.60円/ℓ 前年比 +22.30円

【営業外損益】

- ・ 宿泊施設感染防止対策物品購入支援補助金(秋田県)1.7M 事業継続支援金 0.6M(小坂町)
雇用調整助成金 0.2M 月次支援金 0.2M(4月、6月) 保険金 0.9M

【特別利益】

- ・ 大川岱社宅 9,216千円(不動産査定額) 固定資産評価額 17,117千円(不動産取得税 685千円)
大川岱社宅の不動産査定額9,216千円を特別利益計上により当期利益は収支トントンの黒字を見込む

(2) 宿泊部門の推移

<宿泊指標 推移>

	2018年			2019年			2020年			2021年		
	オン	オフ		オン	オフ		オン	オフ		オン	オフ	
営業日数	207	41	166	205	47	158	131	30	101	201	45	156
宿泊人員(人)	14,423	3,486	10,937	13,098	3,647	9,451	6,382	1,570	4,812	8,063	2,132	5,931
単価(円)	14,929	16,544	14,411	16,695	18,963	15,819	17,577	18,984	17,118	19,405	20,915	18,863
宿泊売上(百万円)	215	58	158	219	69	150	112	30	82	156	45	112
ADR(円)	16,945	21,462	15,606	20,137	25,810	18,154	19,646	24,758	18,136	23,791	29,124	22,036
稼働率	64.8%	74.8%	62.3%	61.0%	70.6%	57.5%	45.2%	45.3%	45.2%	37.7%	41.6%	36.5%
1室当り人員	2.15	2.27	2.11	2.10	2.20	2.08	2.15	2.31	2.11	2.13	2.28	2.08
1日当り売上(千円)	1,040	1,407	949	1,067	1,471	946	856	993	816	778	991	717

月別人員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
2019年	929	1,677	1,609	1,688	2,440	2,014	2,110	631	13,098
2020年	0	0	0	1,186	1,301	1,179	1,723	993	6,382
2021年	318	900	610	1,156	1,471	1,262	1,635	711	8,063
2019年達成率	34.2%	53.7%	37.9%	68.5%	60.3%	62.7%	77.5%	112.7%	61.6%

稼働率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
2019年	78.2%	51.9%	52.0%	50.8%	69.4%	63.6%	65.7%	69.8%	60.5%
2020年	—	—	—	37.5%	40.4%	52.5%	53.2%	43.3%	45.2%
2021年	21.6%	30.0%	23.4%	37.3%	41.6%	42.5%	50.6%	50.9%	37.7%
2019年差異	-56.6%	-21.9%	-28.6%	-13.5%	-27.8%	-21.1%	-15.1%	-18.9%	-22.8%

- 特に4月、6月において2019年達成率40%以下であり県民割等で徐々に回復は見られたが通年においても60%程度までの回復に止まる。

単位:円

宿泊単価推移



料理売上構成 (4月～11月)

	2019年		2020年		2021年	
	販売数量	構成比	販売数量	構成比	販売数量	構成比
朝食計(15)	13,082	100.0%	6,392	100.0%	8,073	100.0%
夕食(100)	4	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
夕食(80)	1,235	9.7%	3,329	52.3%	3,143	39.0%
夕食(60)	8,248	64.6%	2,508	39.4%	4,685	58.2%
夕食(40)	2,875	22.5%	390	6.1%	0	0.0%
夕食(30)DG	319	2.5%	37	0.6%	50	0.6%
夕食(小人他)	90	0.7%	99	1.6%	174	2.2%
夕食計	12,771	100.0%	6,363	100.0%	8,052	100.0%

	2019年		2020年		2021年	
宿泊人員(人)	13,098	喫食率	6,382	喫食率	8,063	喫食率
朝食収入(千円)	19,623	100%	9,588	100%	12,110	100%
夕食収入(千円)	73,698	97.5%	44,400	99.7%	54,308	99.9%
料理収入計(千円)	93,321		53,988		66,418	
朝食単価(円)	1,498		1,502		1,502	
夕食単価(円)	5,627		6,957		6,735	
料理単価(円)	7,125		8,459		8,237	

地域別宿泊人員比較表【2020年4月～11月】

コード	項目名	2019年		2020年		増減	2021年		増減
		人数	構成比	人数	構成比		人数	構成比	
1	北海道	153	1.2%	30	0.5%	▲ 123	78	1.0%	48
2	東北地方	1,788	13.7%	4,595	72.0%	2,807	4,574	56.7%	▲ 21
3	北陸地方	450	3.4%	66	1.0%	▲ 384	91	1.1%	25
4	関東地方	5,942	45.4%	1,020	16.0%	▲ 4,922	2,196	27.2%	1,176
5	中部地方	1,180	9.0%	197	3.1%	▲ 983	262	3.2%	65
6	近畿地方	2,181	16.7%	384	6.0%	▲ 1,797	655	8.1%	271
7	九州地方・沖縄	460	3.5%	31	0.5%	▲ 429	137	1.7%	106
8	中国・四国地方	545	4.2%	59	0.9%	▲ 486	70	0.9%	11
9	外国	399	3.0%	0	0.0%	▲ 399	0	0.0%	0
	計	13,098	100.0%	6,382	100.0%	▲ 6,716	8,063	100.0%	1,681
	内秋田県	542	4.1%	3,998	62.6%	3,456	3,873	48.0%	▲ 125

	秋田県民利用		県民割		小坂町宿泊券利用		プレミアム宿泊券利用	
4月	93名	29.2%	87名	434千円	0枚	0千円	61枚	305千円
5月	575名	63.9%	478名	2,380千円	0枚	0千円	439枚	2,173千円
6月	281名	46.1%	267名	1,328千円	0枚	0千円	200枚	993千円
7月	639名	55.3%	528名	2,640千円	331枚	1,655千円	108枚	540千円
8月	533名	36.2%	488名	2,428千円	350枚	1,750千円	176枚	880千円
9月	747名	59.2%	722名	3,584千円	603枚	3,015千円	0枚	0千円
10月	594名	36.3%	539名	2,695千円	278枚	1,390千円	0枚	0千円
11月	411名	57.8%	371名	1,849千円	229枚	1,145千円	0枚	0千円
合計	3,873名	48.0%	3,480名	17,338千円	1,791枚	8,955千円	984枚	4,891千円
2020年	3,998名	62.6%	0名	0千円	1,218枚	6,090千円	7,115枚	35,575千円
増減	▲ 125名	▲ 14.6%	3,480名	17,338千円	573枚	2,865千円	▲ 6,131枚	▲ 30,684千円

- 県民割を活用した料理グレードアッププラン(18,000円～)により単価増を図ったことで2019年比+2,710円の単価増で効果額+22M、前年比においても+1,824円増の+15Mの効果が図れた。
料理グレードアッププラン 3,143名 利用率39%
- 秋田県民利用 3,873名 48% 県民割利用者 3,480名 利用率 90%
- 小坂町宿泊券(8施設利用) 5,000枚発行 回収 1,791枚 当社利用率 35.8%

コロナ対策助成 単位:千円

	2021年	2020年	差異
県民割	17,338	0	17,338
小坂町	8,955	6,090	2,865
プレミアム券	4,891	35,575	▲ 30,684
GOTO	0	13,221	▲ 13,221
計	31,184	54,886	▲ 23,702

<カテゴリー別 推移>

	①2017年		②2018年		③2019年		④2020年		⑤2021年		2021年-2019年	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	達成率
直販(個人)	17	9.3%	20	9.3%	21	9.6%	34	30.4%	42	27.0%	21	200.4%
自社HP	7	3.6%	9	4.2%	10	4.4%	20	18.2%	37	23.8%	27	383.4%
OTA	36	19.2%	46	21.5%	44	19.8%	22	19.3%	35	22.5%	▲ 8	80.6%
JTB	54	28.8%	64	29.7%	68	30.8%	24	21.7%	29	18.8%	▲ 38	43.4%
その他AGT	22	11.8%	26	12.0%	22	10.1%	7	6.2%	6	4.1%	▲ 16	28.6%
個人計	136	72.8%	165	76.6%	164	74.7%	107	95.9%	150	96.2%	▲ 14	91.4%
直販(団体)	2	0.8%	4	1.7%	4	1.8%	0	0.0%	1	0.4%	▲ 3	16.9%
JTB(団体)	33	17.4%	32	15.1%	32	14.6%	0	0.4%	0	0.2%	▲ 32	0.7%
その他AGT	17	9.0%	14	6.6%	18	8.3%	4	3.7%	5	3.2%	▲ 13	27.2%
インバウンド	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	▲ 1	0.0%
団体計	51	27.2%	50	23.4%	55	25.3%	5	4.1%	6	3.8%	▲ 50	10.5%
合計	187	100.0%	215	100.0%	219	100.0%	112	100.0%	156	100.0%	▲ 64	71.0%

- コロナ以前(2019年)は、個人客が75%から2021年は、91% 直販比率は14%から50.8%と個人、直販にシフト
- 2020年、2021年は、コロナにより募集団体ほぼキャンセルおよび未設定
県民割で地元客が大幅に増加したことで移動手段が県外客は飛行機・新幹線→レンタカーが主流から地元客は、自家用車であることからAGTの個人向けバックツアーから、新聞等による告知で自社ホームページおよび電話予約が大幅に増加した。2019年比 +48M 158%増 直販比率(個人) 50.8% +36.8% 県民利用 3,873名 +3,331名

(3)

クチコミ評価の状況

自社アンケート(2021年12月現在)

十和田ホテル		総合	予約	フロント	レストラン	売店	清掃係	客室清掃
	2020年	92.5	92.7	93.8	94.1	93.3	94.3	94.2
	2021年	92.9	93.4	94.3	96.0	93.1	92.7	91.6
		客室備品	客室眺望	大浴場清掃	大浴場眺望	夕食	朝食	
	2020年	88.4	92.7	91.1	93.1	91.6	91.7	
	2021年	88.5	94.2	94.7	95.7	92.2	88.5	

JTB評価(2021年12月現在)

		総合	部屋	風呂	夕食	接客		
十和田ホテル	2020年	85	82	80	82	83		
	2021年	86	82	80	83	84		
八甲田ホテル	2021年	89	81	79	87	89		
奥入瀬溪流H	2021年	87	86	84	85	84		
十和田プリンスH	2021年	79	73	75	80	78		

じゃらん口コミ(2021年12月現在)

		総合	部屋	風呂	朝食	夕食	接客	清潔感
十和田ホテル	2020年	4.5	4.6	3.7	4.5	4.3	4.4	4.6
	2021年	3.9	4.1	4.2	3.9	3.8	4.3	4.1
八甲田ホテル	2021年	4.6	4.7	4.6	4.2	4.6	4.4	4.9
奥入瀬溪流ホテル	2021年	4.4	4.5	4.2	4.4	4.4	4.5	4.5
十和田プリンス	2021年	4.4	4.1	4.0	4.3	4.5	4.2	4.2

一休口コミ(2021年12月現在)

		総合	客室・アメニティ	風呂	食事	接客	施設・設備	満足度
十和田ホテル	2020年	4.70	4.60	4.55	4.55	4.95	4.70	4.85
	2021年	4.57	4.48	4.52	4.39	4.70	4.61	4.71
八甲田ホテル	2021年	4.30	4.14	4.21	4.43	4.38	4.21	4.45
奥入瀬溪流ホテル	2021年	3.89	3.84	3.92	3.87	3.93	3.95	3.87
十和田プリンス	2021年	4.04	3.71	4.05	4.35	4.24	3.67	4.29

楽天口コミ(2021年12月現在)

		総合	部屋	風呂	食事	接客	設備・アメニティ	立地
十和田ホテル	2020年	4.42	4.50	4.17	4.42	4.67	3.58	4.58
	2021年	4.73	4.55	4.64	4.82	4.82	4.27	4.64
八甲田ホテル	2021年	4.53	4.41	4.38	4.25	4.47	4.56	4.50
奥入瀬渓流ホテル	2021年	4.09	4.12	3.99	4.07	4.13	3.97	4.28
十和田プリンス	2021年	4.27	3.91	4.12	4.42	4.27	3.82	4.39

- ・ 自社アンケート、楽天での評価は概ね増加したもののじゃらん、一休では減少
特にじゃらんの総合評価、食事が、3点台へ低下(3.9)

(4) 生産性について

4月～11月実績 2020年・・・7月～11月(4月～6月休館除く)

		要員数 (年間総労働時間/年間所定労働時間)				
		フロント	料飲	調理	庶務	総務
2021年	24.7	9.9	6.6	4.8	3.4	0.0
2020年	26.9	10.6	7.5	5.4	3.3	0.0
2019年	28.7	11.4	8.3	5.8	3.3	0.0
2018年	33.0	12.2	9.0	6.8	4.3	0.7
2017年	29.0	12.6	7.4	4.8	3.6	0.7

		労働時間(4月～11月)				
		フロント	料飲	調理	庶務	総務
2021年	34,253	13,696	9,101	6,683	4,773	0
2020年	23,251	9,179	6,526	4,669	2,877	0
2019年	39,778	15,752	11,507	7,966	4,554	0
2018年	45,687	16,947	12,478	9,403	5,950	909
2017年	40,121	17,418	10,186	6,593	4,999	925

4月～11月実績 2020年・・・7月～11月

	給与	労働時間	時給単価	売上生産性	売上高
2021年	43,020	34,253	1,256	5,129	175,677
2020年	29,071	23,251	1,250	5,564	129,368
2019年	50,264	39,778	1,264	6,346	252,449
2018年	58,415	45,687	1,279	5,436	248,337
2017年	44,445	40,121	1,108	5,432	217,953

労働生産性

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	4～11月	年間計
2021年	0.64	1.63	0.97	1.61	2.44	1.71	2.90	1.34	1.74	1.46
予算	1.30	1.80	1.51	1.76	2.92	1.97	2.96	1.24	1.97	1.68
2020年	-	-	-	1.46	1.79	1.46	2.85	1.52	1.29	1.08
2019年	1.48	1.90	1.60	1.89	2.89	1.98	2.77	1.13	2.03	1.66
2018年	1.22	1.57	1.33	1.63	2.53	1.74	2.60	1.11	1.80	1.54
2017年	1.00	1.51	1.28	1.58	2.79	1.94	2.86	1.15	1.85	1.58

- ・ レストランでは、ショーシャルデスタンス・3密回避のため席数を縮小し2部制での受入れ(19卓)

(5) 近隣施設状況

	2021年度 1月～12月		2020年度 1月～12月		達成率		2019年度 1月～12月		達成率		2018年度 1月～12月		達成率	
	宿泊客数	うち外国人	宿泊客数	うち外国人	宿泊客数	うち外国人	宿泊客数	うち外国人	宿泊客数	うち外国人	宿泊客数	うち外国人	宿泊客数	うち外国人
十和田市街地(6施設)	96,160	76	77,061	126	124.8%	60.3%	114,133	3,053	84.3%	2.5%	110,253	2,219	87.2%	3.4%
奥入瀬・八甲田(10施設)	75,547	124	94,586	8,332	79.9%	1.5%	142,839	36,757	52.9%	0.3%	135,038	29,803	55.9%	0.4%
宇樽部・休屋(10施設)	23,680	66	30,601	2,434	77.4%	2.7%	74,909	27,120	31.6%	0.2%	82,605	29,621	28.7%	0.2%
小坂町・十和田湖(7施設)	34,434	182	34,952	272	98.5%	66.9%	64,860	6,061	53.1%	3.0%	67,846	6,464	50.8%	2.8%
十和田ホテル	8,063	0	6,382	0	126.3%	-	13,098	399	61.6%	0.0%	14,338	546	56.2%	0.0%

- ・ 十和田・八甲田地域の宿泊人員は前年比においても減少となっている。コロナ禍前の2019年比は、十和田市街地ホテルを除き50%程度の回復となっている。
当社は 前年比 126.3% 2019年比 61.6% プリンスH 前年比 114.2% 2019年比 61.9%(2020年は、4～6月休館しており前年比増となっているものの、2019年比では双方とも同程度(61%)の回復となっている。

2、2021年重点課題の総括

(1) 労働生産性の向上

施策	スタッフのマルチタスク化の推進	【評価】	×
実績	直雇用採用ができず、レストランが派遣社員中心のシフトになり実施見合わせ～9月		
	繁忙月10月は派遣採用も難しく1名をレストラン兼務で対応		
	労働生産性 4月～11月 実績 1.74 予算比 ▲0.23 2019年比 ▲0.29 2020年比 ▲0.02		
	接客生産性(客数÷労働時間)実績 0.24 予算比 ▲0.05 2019年比 ▲0.09 2020年比 ▲0.03		

(2) AGT頼みの集客から脱却を図り、販売手数料を抑制し限界利益を改善

施策①	自社販売(直販+自社HP予約)の底上げ	【評価】	○
実績	限界利益率 67.3% 予算比 +0.9P 2019年比 +4.2P 2020年比+3.7P		
	直販比率 51.2% 予算比 +7.0P 前年比 +2.6P 2019年比 +35.4P		

施策②	秋田県および近隣県からの集客強化とリピーター化の推進	【評価】	×
実績	県民利用 3,873名 48.0% 前年比 ▲125名 ▲14.6% リピーター率 8.0% 目標比 ▲2.0P		

施策③	ネット販売(自社HP+OTA)の強化推進	【評価】 △
実績	OTA販売比率 46.3%(内 自社HP 23.8%) 予算比 ▲4.1P(内自社HP▲4.3P) 前年比 +8.8P(内自社HP+5.6P)	
施策④	基本料金および販売プランの見直し	【評価】 ○
実績	室料構成比 57.6% 予算比 ▲1.3P 前年比 +5.7P 2019年比 +0.3P ADR 20,606円 予算比 1,246円 前年比 1,777円 2019年比 2,836円 宿泊単価 19,405円 予算比 1,175円 前年比 1,825円 2019年比 2,710円	
(3)コロナ感染拡大防止策の継続による新たな様式に対応した運営		
施策①	1泊朝食、素泊まりプランの販売による客室稼働率の向上	【評価】 ×
実績	素泊まり 27名(0.3%) 1泊朝食 33名(0.4%)	
(4)顧客満足度の向上を第一に考えたお客様目線での接客および施設維持の実践		
施策①	低評価項目(大浴場・接客・設備・アメニティ)の底上げ	【評価】 △
実績	じゃらん口コミ 【大浴場】目標 4.2 → 4.2 【接客】目標 4.6→4.3 楽天口コミ 【施設・アメニティ】目標 4.0→4.27	
(5)スタッフの高齢化および人材の確保		
施策①	継続的な求人活動、定着率の改善	【評価】 ×
実績	常用雇用者 採用なし 季節雇用者 新規採用 鹿角市、小坂町、十和田市より 3名(調理補助1名 庶務2名) 新卒 調理希望(秋田市) 1名 施設見学あり…採用には至らず 調理 1名 料飲サービス 4名 派遣社員にて対応	

3、環境認識

(1)外部環境

- ① ワクチン接種が感染の抑止力が高まり国内レジャーは回復傾向にきていたがコロナの新型株が発生しワクチン3回目接種の遅延、蔓延防止等重点措置の再発出等で依然として先行き不透明である。
- ② 3密回避が標準化しコロナ禍を踏まえた生活様式の変化に対応した施設・商品が浸透してきており、従来のオペレーションやサービス内容では顧客ニーズに対応しきれなくなっているためこれを見直し、継続的に新たな商品提供を行う必要がある。
- ③ リアルエージェントの窓口販売から予約のオンライン化が顕著となっている。
- ④ インバウンドは、海外での感染状況にもよるが直近では大きな回復はみこめない。
- ⑤ SDGsへの取り組みが顕著となっており、環境に対する価値感の変化に対応した取り組みが求められる。

(1)内部環境

- ① 従業員が高齢化しており若年層の常用雇用者の求人を継続的に実施するも応募しない。
- ② 従業員の雇用定着を図るうえで冬期間におけるの営業再開については、事業採算性から現状では難しい。
- ③ コロナ感染症拡大により2年連続の営業赤字で累積欠損金が、資本金の2分の1を超過しておりコロナ禍であっても黒字化が必須である。
- ④ ほとんどがレストランでの夕食付宿泊者であるが、コロナにより密回避の観点から最大30組程度の供給枠のため、新しいサービスを取り入れた商品販売により稼働アップが必要である。

4、重点課題

【集客・売上拡大策】

- ① 従来の1泊2食販売にとらわれず新しいサービスでの稼働アップ(部屋食弁当、朝食のみ、素泊まり等)
- ② 県民および近隣県民の利用推進、自社HP、新聞等メディア活用による直販比率対策により限界利益の引き上げ
- ③ THE FUJITA MEMBERS(FGMC会員 85万人)新システムを導入(4月)し藤田観光顧客の取り込み
- ④ 付加価値の高い高単価な味覚メニュープランの比率アップによる宿泊単価をアップ
- ⑤ リピーターの推進
- ⑥ 平日集客対策

【CS向上策】

- ⑦ 口コミ評価に真摯に受け止めお客様目線でのサービス・施設維持の実践

【生産性向上策】

- ⑧ 直雇用採用の推進
- ⑨ ルーチンワークの見直し、マルチタスク化推進による生産性向上

5、方針

人材の確保を図るとともに新たな生活様式にも対応した商品展開により売上拡大、生産性向上、費用構造の改善を推進し黒字化を図る

6、重点施策

- ① 部屋食弁当プラン、1泊朝食プラン、素泊まりプランの新規販売および強化
- ② 直予約、自社HP利用が高い北東北3県(秋田、青森、岩手)への新聞等メディア告知による集客
- ③ 取引先企業等への福利厚生でのタイアップ
- ④ 藤田観光グループ会員(FGMC)へSNSでの告知および新規会員の獲得(利用実績 2021年 339名 6,830千円)
- ⑤ 北東北3県からの利用者への付加価値商品を販売(味覚プラン等)
- ⑥ DM、メルマガ等によるリピーターの利用促進
- ⑦ 平日ベースとなる募集ツアー・団体の獲得

【CS向上策】

- ⑧ 料理品質の向上・大浴場・接客・設備・アメニティの底上げ

【生産性向上策】

- ⑨ 北東北の専門学校・地元高校への求人活動・地元新聞・折り込み広告への求人掲載、ハローワークへの働きかけ
- ⑩ ルーチンワークの見直し、業務配分の是正
接客業務(フロント、売店、料飲サービス)のシフト化によるマルチタスク化推進

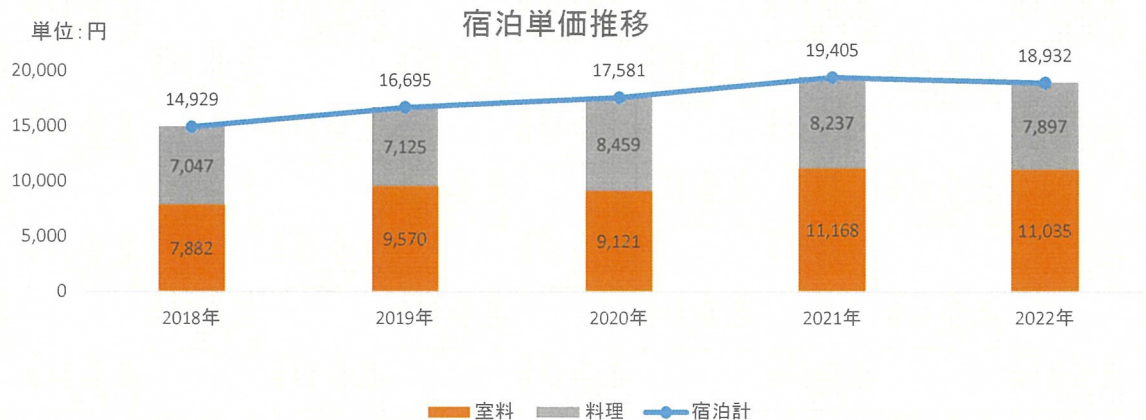
7、

経営計画		①2020年	構成比	②2021年	構成比	③2022年	構成比	④2019年	構成比	2022年-2019年
売上高	室料収入	58	45.0%	90	51.2%	114	51.7%	125	49.5%	▲ 12 2.1%
	料理収入	54	41.7%	66	37.8%	81	37.0%	93	36.9%	▲ 12 0.1%
	飲物収入	8	6.2%	10	5.5%	12	5.5%	14	5.7%	▲ 2 -0.2%
	売店収入	9	6.6%	9	4.9%	11	5.2%	16	6.5%	▲ 5 -1.3%
	その他収入	1	0.5%	1	0.5%	2	0.7%	4	1.4%	▲ 2 -0.7%
計		129	100.0%	176	100.0%	220	100.0%	253	100.0%	▲ 33 0.0%
変動費	材料費	24	18.7%	29	16.4%	36	16.5%	42	16.8%	▲ 6 -0.3%
	手数料	11	8.2%	13	7.6%	19	8.7%	32	12.6%	▲ 13 -3.9%
	変動人件費	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.4%	▲ 1 -0.4%
	客室清掃費	4	3.4%	6	3.3%	9	4.2%	6	2.4%	3 1.8%
	その他	8	6.2%	10	5.5%	12	5.3%	13	5.3%	▲ 2 0.0%
計		47	36.5%	57	32.7%	76	34.8%	95	37.5%	▲ 18 -2.7%
限界利益		82	63.5%	118	67.3%	144	65.2%	158	62.5%	▲ 15 2.7%
固定費	人件費	69	53.7%	71	40.4%	77	34.8%	84	33.1%	▲ 7 1.8%
	水道光熱費	14	10.9%	22	12.2%	22	9.9%	23	9.1%	▲ 1 0.8%
	業務委託費	7	5.1%	8	4.6%	9	3.9%	9	3.4%	▲ 0 0.5%
	営業費	2	1.8%	3	1.6%	4	1.6%	4	1.8%	▲ 1 -0.1%
	設備関連費	15	11.5%	16	9.0%	16	7.5%	16	6.4%	0 1.1%
	その他	10	8.0%	12	6.7%	11	5.2%	16	6.5%	▲ 5 -1.3%
計		118	91.0%	131	74.5%	139	63.0%	153	60.3%	▲ 14 2.7%
償却等負担前営業利益		▲ 36	-27.4%	▲ 13	-7.2%	5	2.3%	6	2.2%	▲ 1 0.0%
営業利益		▲ 36	-27.4%	▲ 13	-7.2%	5	2.3%	6	2.2%	▲ 1 0.0%
営業外損益		16	12.2%	4	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	0 0.0%
経常利益		▲ 20	-15.3%	▲ 9	-4.9%	5	2.3%	6	2.2%	▲ 1 0.0%
損益分岐点売上高		185		195		212		244		▲ 32 0.0%
労務費		80	62.2%	85	48.2%	95	43.0%	100	39.3%	▲ 5 3.7%
労働生産性		1.08		1.46		1.61		1.66		-0.05

客室清掃費 1室 1,620円→1,898円 +278円(影響額1,350千円)

<宿泊指標 推移>

	2019年			2020年			2021年			2022年			2022年-2019年		
	オン	オフ		オン	オフ		オン	オフ		オン	オフ		オン	オフ	
営業日数	205	47	158	131	30	101	201	45	156	212	50	162	7	3	4
宿泊人員(人)	13,098	3,647	9,451	6,382	1,570	4,812	8,063	2,132	5,931	10,300	2,715	7,585	▲ 2,798	▲ 932	▲ 1,866
単価(円)	16,695	18,963	15,819	17,577	18,984	17,118	19,405	20,915	18,863	18,932	22,157	17,778	2,238	3,194	1,959
宿泊売上(百万円)	219	69	150	112	30	82	156	45	112	195	60	135	▲ 24	▲ 9	▲ 15
ADR(円)	20,137	25,810	18,154	19,646	24,758	18,136	23,791	29,124	22,036	23,397	28,528	21,631	3,260	2,718	3,477
稼働率	61.0%	70.6%	57.5%	45.2%	45.3%	45.2%	37.7%	41.6%	36.5%	45.8%	49.8%	44.6%	-15.2%	-20.9%	-12.9%
1室当り人員	2.10	2.20	2.08	2.15	2.31	2.11	2.13	2.28	2.08	2.12	2.18	2.10	0.03	-0.01	0.02
1日当り売上(千円)	1,067	1,471	946	856	993	816	778	991	717	920	1,203	832	▲ 147	▲ 268	▲ 114



<カテゴリー別売上・比率推移>

	①2018年		②2019年		③2020年		④2021年		⑤2022年		2022年-2019年	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	達成率
直販(個人)	20	9.3%	21	9.6%	34	30.4%	42	27.0%	42	21.7%	21	201.6%
自社HP	9	4.2%	10	4.4%	20	18.2%	37	23.8%	39	19.8%	29	399.9%
OTA	46	21.5%	44	19.8%	22	19.3%	35	22.5%	43	22.2%	▲ 0	99.3%
JTB	64	29.7%	68	30.8%	24	21.7%	29	18.8%	34	17.2%	▲ 34	49.7%
その他AGT	26	12.0%	22	10.1%	7	6.2%	6	4.1%	12	6.4%	▲ 10	55.9%
個人計	165	76.6%	164	74.7%	107	95.9%	150	96.2%	170	87.3%	6	103.8%
直販(団体)	4	1.7%	4	1.8%	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	▲ 4	0.0%
JTB(団体)	32	15.1%	32	14.6%	0	0.4%	0	0.2%	8	4.0%	▲ 24	24.4%
その他AGT	14	6.6%	18	8.3%	4	3.7%	5	3.2%	17	8.7%	▲ 1	93.6%
インバウンド	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	▲ 1	0.0%
団体計	50	23.4%	55	25.3%	5	4.1%	6	3.8%	25	12.7%	▲ 31	44.7%
合計	215	100.0%	219	100.0%	112	100.0%	156	100.0%	195	100.0%	▲ 24	88.9%

生産性

4月～11月実績 (2020年7月～11月 4月～6月休館)

	給与	労働時間	時給単価	売上生産性	売上高
2022年	47,218	35,518	1,329	6,194	220,000
2021年	43,020	34,253	1,256	5,129	175,677
2020年	29,071	23,251	1,250	5,564	129,368
2019年	50,264	39,778	1,264	6,346	252,449
2018年	58,415	45,687	1,279	5,436	248,337

労働生産性

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	4-11月	年間計
2022年	1.01	1.69	1.40	1.66	2.72	1.83	3.21	1.20	1.90	1.61
2021年	0.64	1.63	0.97	1.61	2.44	1.71	2.90	1.34	1.74	1.46
2020年	-	-	-	1.46	1.79	1.46	2.85	1.52	1.29	1.08
2019年	1.48	1.90	1.60	1.89	2.89	1.98	2.77	1.13	2.03	1.66
2018年	1.22	1.57	1.33	1.63	2.53	1.74	2.60	1.11	1.80	1.54

8、SDGs対応について

- ① 客室内、大浴場に設置しているプラスチック使用のアメニティは設置せずSDGs対応商品への設置および一部のアメニティは有料化
- ② アメニティ類を設置しないプラン造成(エコプラン) 通常価格より@500円OFF/1名
- ③ 連泊時のエコ清掃およびノークリーニングの実施...@500円OFF/1名

9、投資計画

- ① 車両入替 2,000 千円
- ② 厨房機器・備品 2,000 千円

収支計画

第26期（2022年4月1日～2023年 3月31日）
損 益 計 算 書

十和田ホテル株式会社

(単位:千円 税抜き)

		2022年度予算		2021年度見込み		増減		2020年度実績		増減	
		金額	構成率	金額	構成率	金額	増減率	金額	構成率	金額	増減率
	室 料 収 入	113,663	51.7%	90,048	51.2%	23,615	26.2%	58,222	45.0%	55,441	95.2%
	料 理 収 入	81,337	37.0%	66,418	37.8%	14,919	22.5%	53,988	41.7%	27,349	50.7%
	飲 物 収 入	12,154	5.5%	9,682	5.5%	2,472	25.5%	7,967	6.2%	4,187	52.6%
	売 店 収 入	11,330	5.2%	8,622	4.9%	2,708	31.4%	8,526	6.6%	2,804	32.9%
	そ の 他	1,516	0.7%	946	0.5%	570	60.3%	691	0.5%	825	119.4%
営 業 収 益		220,000	100.0%	175,715	100.0%	44,285	25.2%	129,394	100.0%	90,606	70.0%
	材 料 費	36,284	16.5%	28,763	16.4%	7,521	26.1%	24,209	18.7%	12,075	49.9%
	(料 理 材 料 費)	(23995)	(29.5)	(19499)	(29.4)	4,496	0.2	(15756)	(29.2)	8,239	0.5
	(飲 物 材 料 費)	(3039)	(25.0)	(2350)	(24.3)	689	0.3	(1912)	(24.0)	1,127	0.6
	変 動 人 件 費	0	0.0%	0	0.0%	0	-	0	0.0%	0	#DIV/0!
	客 室 清 掃 委 託 費	9,345	4.2%	5,808	3.3%	3,537	60.9%	4,343	3.4%	5,002	115.2%
	客 用 リ ネ ン 代	2,475	1.1%	1,871	1.1%	604	32.3%	1,469	1.1%	1,006	68.4%
	手 数 料	19,213	8.7%	13,330	7.6%	5,883	44.1%	10,619	8.2%	8,594	80.9%
	ロ イ ヤ リ テ ィ	4,144	1.9%	3,309	1.9%	835	25.2%	2,393	1.8%	1,751	73.2%
	そ の 他	5,027	2.3%	4,413	2.5%	614	13.9%	4,134	3.2%	893	21.6%
	変 動 費 計	76,488	34.8%	57,493	32.7%	18,995	33.0%	47,167	36.5%	29,321	62.2%
限 界 利 益		143,512	65.2%	118,222	67.3%	25,290	21.4%	82,227	63.5%	61,285	74.5%
	固 定 人 件 費	76,641	34.8%	70,933	40.4%	5,708	8.0%	69,476	53.7%	7,165	10.3%
	水 道 光 熱 費	21,699	9.9%	21,432	12.2%	267	1.2%	14,041	10.9%	7,658	54.5%
	業 務 委 託 費	8,671	3.9%	8,007	4.6%	664	8.3%	6,604	5.1%	2,067	31.3%
	販 売 営 業 費	3,620	1.6%	3,075	1.7%	545	17.7%	2,386	1.8%	1,234	51.7%
	衛 生 管 理 費	2,445	1.1%	2,456	1.4%	▲ 11	-0.5%	3,306	2.6%	▲ 861	-26.1%
	地 代 家 賃	754	0.3%	693	0.4%	61	8.8%	1,125	0.9%	▲ 371	-33.0%
	保 守 料	2,710	1.2%	2,491	1.4%	219	8.8%	2,332	1.8%	378	16.2%
	修 繕 費	2,371	1.1%	2,235	1.3%	136	6.1%	3,885	3.0%	▲ 1,514	-39.0%
	雑 費	2,254	1.0%	2,951	1.7%	▲ 697	-23.6%	2,095	1.6%	159	7.6%
	そ の 他	17,347	7.9%	16,733	9.5%	614	3.7%	12,479	9.6%	4,868	39.0%
固 定 費 計		138,512	63.0%	131,006	74.6%	7,506	5.7%	117,730	91.0%	20,782	17.7%
負 担 前 営 業 利 益		5,000	2.3%	▲ 12,785	-7.3%	17,785	7.3%	▲ 35,503	-27.4%	40,503	29.7%
営 業 利 益		5,000	2.3%	▲ 12,785	-7.3%	17,785	139.1%	▲ 35,503	-27.4%	40,503	114.1%
営 業 外 収 益		0	0.0%	4,134	2.4%	▲ 4,134	-100.0%	15,737	12.2%	▲ 15,737	-100.0%
(受 取 利 息)		0	0.0%	0	0.0%	▲ 0	-100.0%	3	0.0%	▲ 3	-100.0%
営 業 外 費 用		0	0.0%	32	0.0%	▲ 32	-100.0%	2	0.0%	▲ 2	-100.0%
(支 払 利 息)		0	0.0%	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	0.0%	0	#DIV/0!
経 常 利 益		5,000	2.3%	▲ 8,682	-4.9%	13,682	157.6%	▲ 19,768	-15.3%	24,768	125.3%
特 別 利 益		0	0.0%	9,216	5.2%	▲ 9,216	-100.0%	0	0.0%	0	#DIV/0!
特 別 損 失		0	0.0%	0	0.0%	0	#DIV/0!	0	0.0%	0	#DIV/0!
税 引 前 当 期 利 益		5,000	2.3%	534	0.3%	4,466	836.6%	▲ 19,768	-15.3%	24,768	125.3%
法人税・住民税および事業税		1,500	0.7%	500	0.3%	1,000	200.0%	300	0.2%	1,200	399.3%
当 期 利 益		3,500	1.6%	34	0.0%	3,466	10239.7%	▲ 20,068	-15.5%	23,568	117.4%

管理施設の利用目標（令和4年度）

○宿泊施設

十和田ホテル株式会社

利用区分	利用人数（人）				収入目標額（千円）			
	今年度 目標①	今年度 見 込	来年度 目標②	差引 (②-①)	今年度 目標①	今年度 見 込	来年度 目標②	差引 (②-①)
1) 利用料金								
宿泊	11,300	8,063	10,300	▲ 1,000	218,769	166,148	207,154	▲ 11,615
日帰				0				0
休憩室				0				0
多目的ホール				0				0
入浴(日帰)				0				0
2) その他								
レストラン	0	0	0	0	0	0	0	0
	宿 泊			0				0
	外 来			0				0
売店	—				14,149	8,622	11,330	▲ 2,819
宴会	0	0	0	0	0	0	0	0
	宿 泊			0				0
	外 来			0				0
ラウンジ	—							0
その他	—				2,821	946	1,516	▲ 1,305
合 計	11,300	8,063	10,300	▲ 1,000	235,739	175,715	220,000	▲ 15,739

法人名 十和田ホテル(株)

②令和 3 年度計算書類等

法人所管課 観光戦略課

事 業 報 告 書

第25期

自 2021年 4 月 1 日
至 2022年 3 月31日

十和田ホテル株式会社

秋田県鹿角郡小坂町十和田湖字鉛山無番地

事業報告

(2021年4月1日から2022年3月31日)

1. 会社の状況に関する重要な事項

(1) 事業の経過および成果

当事業年度における観光業界は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響が長期化し、経済活動の制限や停滞により厳しい状況が続いておりましたが、ワクチン接種の普及拡大等による感染者の減少傾向から、緊急事態宣言が解除された秋口以降は回復への期待感が高まりつつありました。しかしながら、新たな変異株の出現による感染再拡大や原油高騰による物価高等依然として先行きの不透明な状況が続いています。

このような事業環境の中当ホテルにおきましては、県外では緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置が各地で再発出されたこともあり募集团体のキャンセル、県外個人客の利用低迷が継続しており、お客さまと従業員の安心・安全を第一優先にした運営を行いつつ秋田県民利用促進のための支援事業（県民割・プレミアム宿泊券・小坂町宿泊助成券）を活用した地元個人客の取り込みを推進してまいりました。また、前期はコロナ感染症拡大による営業自粛で7月からの営業再開でしたが、当期は通常どおり4月より営業再開をいたしました。なお、観光客が大幅に減少する冬季間（11月～4月）は、営業は休止とし事業採算性を重視した経営を継続いたしました。

以上の結果、宿泊人員は前期比1,681名増の8,063名、売上高は前期比46,321千円増収の175,715千円となりました。しかしながらコロナ感染症拡大前の2019年度と比較しますと宿泊人員では、△38.4%減少と依然として低調な推移となりました。営業費用については、不要不急等の経費削減を図りましたが前期比収入増による材料費等の増加、加えて原油高騰による水道光熱費が大幅に増加（前期比51.4%増）したことにより営業費用総体で前期比23,118円増の188,015千円となりました。以上により営業損失は前期比23,203千円の赤字縮小したものの12,300千円となりました。経常損失は国や秋田県、小坂町からのコロナ対策支援・助成金等を計上したことで前期比11,698千円改善の8,070千円となりました。当期純利益では、従業員用社宅を取得したことによる評価額を特別利益（9,216千円）に計上した結果、前期比20,433千円増益の365千円となりました。

(2) 資金調達等についての状況

① 資金調達の状況

当会計年度においては、新規資金調達はありません。

② 設備投資の状況

当会計年度中において実施いたしました主な設備投資は以下の通りです。

1. コンベクションオープン	1,460 千円
2. 製氷機	700 千円
3. 洗面所自動水栓化工事	400 千円
4. 空気清浄機	2,550 千円
5. ホームページ制作	630 千円

(3) 直前3事業年度の財産および損益の状況

区 分	第 22 期	第 23 期	第 24 期	第 25 期 (当期)
売 上 高 (千 円)	249,971	253,106	129,394	175,715
当期純利益 (千円)	△1,895	3,487	△20,068	365
一株当り当期純利益 (円)	△379.06	697.47	△4,013.67	72.99
総 資 産 (千 円)	110,921	119,586	137,470	143,137

(4) 対処すべき課題

コロナ禍が当面続くと想定される中で、今までの常識から変化した「新しい生活様式」に対応したサービスや、特に衛生面での安心・安全を前提とした施設運営が必須になります。その中で、人材の確保・育成を図り、お客さまに更なる料理・サービス・施設のより品質の高い商品提供をすることで、顧客満足度の向上を図り、売上拡大と生産性向上を推進し体質改善に努めて参ります。

株主の皆様におかれましては、何卒今後とも相変らぬ、ご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(5) 当事業年度末日における主要な事業内容

事業の名称	売上高
ホテル業	175,715,229 円

(6) 当事業年度末日における事業所および使用人の状況

①事業所

事業所名	所在地
十和田ホテル	秋田県鹿角郡小坂町

②従業員の状況

	男	女	計
従業員数	6 名	3 名	9 名
前年比増減	△1 名	±0 名	△1 名

会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 15,000 株
- (2) 発行済株式の総数 5,000 株
- (3) 当事業年度の株主数 19 名

(4)上位 10 名の株主

株主名	所有株式数	株式比率
秋田県	2,000	40.0%
藤田観光(株)	750	15.0%
DOWA ホールディングス(株)	450	9.0%
小坂町	400	8.0%
(株)秋田銀行	250	5.0%
(株)北都銀行	250	5.0%
(株)藤崎	200	4.0%
(株)秋田魁新報社	100	2.0%
秋田テレビ(株)	100	2.0%
(株)玉川温泉	100	2.0%

2. 会社役員に関する事項

(1)取締役および監査役の氏名等

地 位	氏 名	重要な兼職の状況
代 表 取 締 役	猿 田 強	
取 締 役	笠 井 潤	秋田県観光文化スポーツ部観光戦略課長
取 締 役	細 越 満	秋田県小坂町 町長
取 締 役	吉 原 史 直	藤田観光株式会社 リゾート事業部企画室長
取 締 役	仲 雅 之	小坂製錬株式会社 代表取締役社長
取 締 役	田 中 昌 志	株式会社藤崎 専務取締役
取 締 役	佐 川 博 之	株式会社秋田魁新報社 代表取締役社長
取 締 役	神 成 俊 行	秋田テレビ株式会社 取締役相談役
監 査 役	前 田 正 人	公認会計士

(2022 年 3 月 31 日現在)

(2) 取締役および監査役の報酬等の額

区 分	人 数	報酬等の額	摘 要
取 締 役	1 名	10,800,000 円	—
監 査 役	1 名	600,000 円	—
計	2 名	11,400,000 円	—

3. 取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして法務省令で定める体制
(内部統制システム)

(1) 内部統制システムの整備の概要

当社は、ホテル運営において業務提携契約を締結している藤田観光株式会社の指導の下、藤田観光株式会社が会社法第362条第5項の定めによって行った「内部統制システム構築の基本方針に関する決議(2015年4月改定)」に準じて内部統制システムを構築・維持しております。当社および藤田観光グループでは、その使命、価値観を明確にするとともに、全ての役員および従業員がその職務を遂行にあたって心がけるべき行動あるいは心がまえに関する基本方針として、社是・社訓(経営指針・行動指針)を定めております。また、藤田観光グループに係わる全ての人々およびステークホルダーから信頼され、法令等を遵守し、社会に開かれた公正で透明性の高い企業を目指して内部統制システムの改善と整備に努めてまいります。

(2) 内部統制システムの運用状況の概要

- ・取締役会を年4回開催し、法令等に定められた事項や経営方針、予算の策定等経営における重要な事項を決定し、四半期の経営分析・対策・評価を検討しております。
- ・当社は、毎月藤田観光(株)リゾート事業部の指導の下事業戦略会議を開催し、前月の業績の分析、当月予想に基づく施策の進捗状況の確認、課題のPDCAサイクルの確認を行っています。
- ・当社監査役は、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役および従業員等から業務執行について報告を受け、必要に応じて説明を求め、経営に対する内部けん制機能を運用しています。

計 算 書 類
①【貸借対照表】

(単位:円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)		前事業年度 (2021年3月31日)	当事業年度 (2022年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	118,467,727	115,527,867	未払金	1,122,000	—
商品	255,560	287,984	未払法人税等	744,000	1,811,800
原材料及び貯蔵品	2,698,492	2,504,366	未払消費税等	—	4,538,400
前払費用	419,572	361,358	未払費用	5,705,312	5,278,024
その他	2,754,394	1,263,941	預り金	384,670	429,099
流動資産合計	124,595,745	119,945,516	流動負債合計	7,955,982	12,057,323
固定資産			固定負債		
有形固定資産			長期借入金	40,000,000	40,000,000
建物	—	8,792,064	退職給付引当金	2,400,000	3,600,000
建物附属設備	879,978	718,086	固定負債合計	42,400,000	43,600,000
機械装置	2,390,085	3,783,707	負債合計	50,355,982	55,657,323
車両運搬具	1,236,308	960,933			
工具・器具・備品	4,336,568	5,217,339	純資産の部		
有形固定資産合計	8,842,939	19,472,129	株主資本		
無形固定資産			資本金	250,000,000	250,000,000
商標権	71,610	62,930	資本剰余金		
ソフトウェア	3,231,943	2,927,958	資本準備金	—	—
電話設備利用権	720,000	720,000	資本剰余金合計	—	—
無形固定資産合計	4,023,553	3,710,888			
投資その他の資産			利益剰余金		
リサイクル預託金	8,190	8,190	繰越利益剰余金	△ 162,885,555	△ 162,520,600
投資その他の資産合計	8,190	8,190	利益剰余金合計	87,114,445	87,479,400
固定資産合計	12,874,682	23,191,207	株主資本合計	87,114,445	87,479,400
資産合計	137,470,427	143,136,723	純資産合計	87,114,445	87,479,400
			負債純資産合計	137,470,427	143,136,723

②【損益計算書】

(単位:円)

	前 事 業 年 度 (自 2020年4月1日 至 2021年3月31日)		当 事 業 年 度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	
売 上 高		129,393,754		175,715,229
売 上 原 価		141,438,063		160,436,030
売 上 総 利 益		△ 12,044,309		15,279,199
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		23,458,375		27,578,798
営 業 利 益		△ 35,502,684		△ 12,299,599
営 業 外 収 益				
(受取利息)	2,697		95	
(雑収益)	15,734,030		4,260,757	
(その他)	—	15,736,727	—	4,260,852
営 業 外 費 用				
(雑損失)	2,000		—	
(固定資産除却損)	—		31,584	
(その他)	—	2,000	—	31,584
経 常 利 益 または経常損失(△)		△ 19,767,957		△ 8,070,331
特 別 利 益				
(固定資産売却益)	—		—	
(その他)	—	—	9,216,000	9,216,000
特 別 損 失				
(その他)	—	—	—	—
税引前当期純利益 または純損失(△)		△ 19,767,957		1,145,669
法 人 税 等	300,400		780,714	
法人税等調整額	—	300,400	—	780,714
当 期 純 利 益 または純損失(△)		△ 20,068,357		364,955

③【株主資本等変動計算書】

(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位:円)

		株 主 資 本							合 計	
		資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金				合 計
			資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	合 計	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	繰 越 利 益 剰 余 金		
当 期 首 残 高		250,000,000	—	—	—	—	—	△ 162,885,555	△ 162,885,555	87,114,445
当 期 変 動 額	剰 余 金 の 配 当	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	当 期 純 利 益 または純損失(△)	—	—	—	—	—	—	364,955	364,955	364,955
	そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合 計	—	—	—	—	—	—	364,955	364,955	364,955
当 期 末 残 高		250,000,000	—	—	—	—	—	△ 162,520,600	△ 162,520,600	87,479,400

計算書類付属明細書

(1) 有形固定資産および無形固定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	当期償却額	期末帳簿価額	減価償却累計額	期末取得価額
有形固定資産	建物	0	9,216,000	0	423,936	8,792,064	423,936	9,216,000
	建物附属設備	879,978	0	0	161,892	718,086	1,059,914	1,778,000
	機械装置	2,390,085	2,160,000	31,581	734,797	3,783,707	7,777,167	11,560,874
	車両運搬具	1,236,308	0	1	275,374	960,933	6,047,306	7,008,239
	工具器具備品	4,336,568	3,088,387	2	2,207,614	5,217,339	123,284,842	128,502,181
	計	8,842,939	14,464,387	31,584	3,803,613	19,472,129	138,593,165	158,065,294
無形固定資産	商標権	71,610	0	0	8,680	62,930	23,870	86,800
	ソフトウェア	3,231,943	630,000	0	933,985	2,927,958	1,741,970	4,669,928
	電話設備利用権	720,000	0	0	0	720,000	0	720,000
	計	4,023,553	630,000	0	942,665	3,710,888	1,765,840	5,476,728

(2) 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
貸倒引当金	-	-	-	-
賞与引当金	-	-	-	-
退職給付引当金	2,400,000	1,200,000	0	3,600,000
その他引当金	-	-	-	-

(3) 販売費及び一般管理費の明細

(単位：円)

科目	金額	備考
役員報酬	11,400,000	
一般消耗品費	953,676	
旅費	462,512	
交通費	563,496	
通信費	888,738	
広告宣伝費	2,456,002	
販売促進費	3,509,222	
寄付金	10,000	
諸会費	501,700	
地代家賃	748,463	
諸税公課	2,847,390	
研修費	2,273	
雑費	3,235,326	
合計	27,578,798	

個 別 注 記 表

1. この計算書類は、中小企業の会計に関する指針によって作成しております。

2. 重要な会計方針

(1)資産の評価基準および評価方法

ア.棚卸資産の評価基準および評価方法

売店商品、原材料、貯蔵品	...	最終仕入原価法(貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)を採用しております。
--------------	-----	--

(2)固定資産の減価償却の方法

ア.有形固定資産	...	法人税法に規定する定額法を採用しています。
----------	-----	-----------------------

なお、取得価額が10万円以上20万円未満の減価償却資産については、3年間で均等償却しております。

イ.無形固定資産	...	法人税法に規定する定額法を採用しております。
----------	-----	------------------------

(3)その他計算書類の作成のための基本となる重要事項

ア.リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。なお、未経過リース料総額は、4,903千円(内1年内分6千円)であります。

イ.消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜き方式によっております。

3. 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額	138,593 千円
----------------	------------

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度の末日における発行済株式数	5,000 株
--------------------	---------

5. 一株当たり情報に関する注記

ア.純資産額	17,495.88 円
--------	-------------

イ.当期利益額	72.99 円
---------	---------

監査役の監査報告書

監 査 報 告 書

私は、2021年4月1日から2022年3月31日までの第25期事業年度の取締役の職務の執行を監査いたしました。その方法および結果につき以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法およびその内容

私は、取締役および使用人等と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役および使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決議書類等を閲覧し、会社の業務および財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告およびその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿またはこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書および注記表）およびその附属明細書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告およびその附属明細書は、法令および定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類およびその附属明細書の監査結果

計算書類およびその附属明細書は、会社の財産および損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2022年5月16日

十和田ホテル株式会社

監査役

前田正人

